

2013 年度第 2 回分析分科会運営委員会議事録

2013 年 10 月 1 日

分析分科会事務局

開催日時：2013 年 10 月 1 日（火）13:30～16:30

会場：産総研 臨海副都心センター 別館 11 階 第 2 会議室（11207 室）

出席者（敬称略）：

林（岐阜県産業技術センター）、丹羽（岐阜県産業技術センター）、平岡（愛媛県産業技術研究所）、林（東京都立産業技術研究センター）、上野（東京都立産業技術研究センター）、中山（福島県ハイテクプラザ）、工藤（秋田県産業技術センター）、大橋（名古屋市工業研究所）、佐々木（滋賀県東北部工業技術センター）、安達（滋賀県工業技術総合センター）、坂尾（神奈川県産業技術センター）、黒岩（産総研）、福本（産総研）、大畑（産総研）、鈴木（産総研）

欠席者（敬称略）：

南（京都市産業技術研究所）衣笠（産総研）

<議事次第>

1. 資料確認

2. 平成 25 年会について

- ・プログラムの確認
- ・タイムスケジュール担当者の決定
- ・資料作製の確認

上記の議題について、話し合った。以下のことが決定された。

・受付について

受付は 8:30 から開始。8:00 ちょっと前には受付準備開始。産総研事務局（大畑と桐原）と都産研が準備を行う。

・12 月 6 日の技術講演会について

上本氏（都産研）と城野氏（産総研）からの技術講演は、本人たちから短くしてほしいとの要望があり、高田氏の講演時間をその分長くする（高田氏の講演について、プロ

グラム上は 50 分の講演であるので、謝金はこれに準じて支払われる)。

- ・タイムキーパーは黒岩氏（産総研）または事務局が行う。ストップウォッチとベルは事務局が用意する。

- ・交流会について

会場はテレコムセンターの 21 階展望台で、現在 50 名で予約済み。一週間前までに人数を確定する必要あり。予算は、5000 円/人（飲み物放題 2000 円、食事込み）で、会場側の会場を予定（テーブル、マイクとステージ（演台）も含まれる）。

- ・昼食マップは、都産研で用意。

都産研のパフレット等も用意するので、昼食マップも一緒に袋に入れて、受付時に参加者に渡す。袋詰めは都産研が行うので、必要数を事務局から連絡する。

- ・年会プログラムタイムスケジュールについて（エクセル表）

分析技術討論会（12 月 5 日）の司会は、前半が坂尾氏（神奈川県）、後半は林氏（東京都）で決定された。

- ・無機分析の分析技術共同研究討論会の司会について、南氏（京都市）が指名され、出席者間で合意された（南氏は本会に出席していないため、事務局から後日打診する）。司会担当の件は、例年特にルールなしとのこと。手の空いている運営委員が担当。

- ・滋賀県東北部工業技術センターの所長が、5 日のみ参加する（産総研から旅費は出ない旨も了解済み）。交流会にも参加されるが、挨拶されるかは、改めて回答すること（挨拶無しで回答受け取り済み）。5 日プログラムの 7. その他（16:30～16:50）の事務連絡時に、事務局（司会：黒岩氏）から、来年度の会長県について紹介する。

- ・5 日の 7. その他（2）次期開催機関挨拶は、岐阜県産業技術センターの所長は参加されないとのことで、岐阜県所長代理で林氏（同センター）が挨拶される。

- ・5 日の 7. その他（3）平成 26 年度共同研究試料（消石灰かドロマイトになる予定。現時点では未決定）については、詳しい担当者（岐阜県）が説明する。

- ・年会総合資料の前書きについて、前年度資料を事務局から、大まかに作成した共同研究検討会資料（無機分析）の「1 共同研究の概要、2 参加機関、3 結果と解析」を福本氏（産総研）から、平岡氏（愛媛県）へお送りする。

- ・共同研究検討会資料（無機分析）の「試料概要」について、前年度資料を上野氏、林氏（東京都）へ、事務局からお送りする（2013年10月2日にお送りした）。

3. 共同分析結果について報告

<その1>

平岡氏（愛媛県）から説明がなされた。以下の意見が寄せられた。

・ヒストグラムの横軸目盛と実際の値にずれがある。エクセル上の問題ではあるが、修正できないか？→平岡氏：昨年の担当者にも確認し、検討する。

・ヒストグラムの横軸目盛数値がわかりにくい数値となっているので、数値を直した方が良いのでは？→平岡氏：上記目盛の件と大きな外れ値も入れるかに関して、体裁等も含め検討する。

・大きな外れ値は、枠外としても扱える。

・Niのグラフで、図35の目盛りが他のものとずれている

・報告値が一つしか出していないケースがあり、今のところデータ処理に加えているが、どう扱うか？→今回は、とりあえず入れる。但し書きを加えている（来年度からの扱いは要検討：例えば報告値として認めない）

・Crについて、高濃度側にブロードな分布が見られている。何か理由があるか？ICPOESの報告値に多いと思われる。

・その他はスパークだけなら、スパークと書くべきでは？→スパークと書くことで合意。

・CrはICP-OESにおいて、価数の違いで発光強度が違ふ可能性があるようなことを聞いたことがあるが。だとすれば、標準液と試料溶液の価数を合わせなければならないのでは。→関連してCr(III) ($\text{Cr}(\text{NO}_3)_3$) とCr(VI) ($\text{K}_2\text{Cr}_2\text{O}_7$) を原料としたJCSS標準液が販売されているようだとのこと。→関東化学からは上記の両者について、JCSS標準液（1000 mg/L）が販売されていた（2013年10月2日確認）。

・集計表の分析値の桁数について、報告桁数4桁で報告するよう指示したはずなのに、なぜ桁数が違う報告があるのか？→指示書には明記されていたが、報告用エクセルシート（記入例）で異なる表現がされていた。来年度は改めて報告桁数4桁の表現で統一させる。

・集計表について

Cr：小数点以下2桁、それ以外の3元素は小数点以下3桁、とする

（集計表の体裁として）。→棄却が変わりませんか？の質問が出たが、大丈夫でしょうということになった。

・Siの集計表の編みかけはとる。

・分析結果のまとめの部分も、上記の桁数表記にする。

<その2>

福本氏（産総研）からZスコアによる解析についての説明がなされた。

- ・JFE テクノリサーチのデータについて説明（黒岩氏）。事務局からエクセルデータを東京都に送付する（共同試験用試料の紹介に含める）。

4. 平成26年度共同分析試料について

丹羽氏（岐阜県）から来年度共同研究についての説明がなされた。

候補試料は消石灰かドロマイトの粉末試料で、市販品が手に入る。それぞれの試料中の4元素（分析対象元素）の濃度は以下の通り（岐阜県測定データ）。

消石灰：Ca: 53%、Fe: 0.24%、Mg: 1.72%、Al: 0.17%

ドロマイト：Ca: 34%、Mg: 17%、Fe: 0.12%

ドロマイトはJIS分析法ではふっ酸を使用する（参加を敬遠される可能性もある）

以下の様な質問や意見が寄せられた。

- ・データ処理する立場からは、2試料より1試料が好ましいのでは。似たような試料だとデータの報告時に混乱が起これなければいいが・・・→来年度データ処理担当の滋賀県からは、スケジュール次第ではあるが、2試料実施する必要があるならば、対応は努力するとのこと。
- ・製鉄では消石灰を使う（不純物を取り除くため）。
- ・消石灰とドロマイトは、金翔山から採掘される天然のもの。依頼状（産総研から）を採掘会社に出せば、試料（消石灰およびドロマイト）を無償提供してもらえる。
- ・試料に関して候補順位を付ける。目的・ニーズも合わせて整理する（岐阜県と事務局と詳細を詰めていく）。
- ・測定対象元素は、上記の4元素で合意された。
- ・消石灰について、強熱減量を報告してもらおうかどうか？→報告してもらおう方向で検討する。少なくとも、乾燥方法を指定する必要があるとのこと合意された。
- ・依頼分析時に乾燥条件などもある程度検討し、それを参考に分析指示書を決定する予定となった。
- ・試料の選定・調製（瓶詰、均質性の確認など含め）は依頼分析も併せ、予算も考慮し、岐阜県と事務局で詳細を詰めていく。

5. 分担表の確認について

分担表を確認し、平成 27 年度の開催機関の順番に入れ替えについて、事務局から報告があり、了解された。

6. 第 3 回運営委員会について

2013 年 12 月 4 日（水）の 17:00～19:00 に都産研 2F の産学公連携室で行われる（確認された）。

7. その他

- ・次回年会の開催場所については、まだ未決定（じゅうろくプラザは案であり、まだ未予約）。値段・費用・人数などを熟慮しながら開催場所を決定していく（事務局と協議しながら）。
- ・年会参加者数について、現時点（10/1 時点）で 35 名前後（15 機関位から）であることを事務局から報告した。参加受付は 10/18 まで。
- ・大橋氏（名古屋）から、出席者名簿の要望があったので、了承した（取り扱いには注意すること）。10/25 に大橋氏にお送りする。